

学び続けるということ

校長 宅島 健司

私の教員生活において、2年連続で3年担当を希望したのは1度だけだった。3年まで持ち上げたいと思いつつ、転勤となった先生方の思いを受け継ぎたいとの思いからであった。その学年の3名の生徒が想い起される。

一人目は、理系クラスの男子生徒で、論理的思考力があり、真面目かつユーモアがあり、私が授業中笑いを誘うようなことを言うと「それはどうかなあ？」と突っ込みを入れるような生徒だった。当時、センター試験会場は、県北地区では県立大と佐世保北高の2会場で、佐世保北高では体育館が待機場所であった。試験後は、出来不出来や問題等について一切口にせず、次の試験に集中するよう指導していたので、数学の試験後、彼が体育館に戻ってくるなり飛び込み前転したのを今でもはっきり覚えている。試験ができた意思表示だったのだが、結果は100点満点であった。予定通り九州大学工学部機械航空工学科を受験し、見事合格した。ただ、彼は大学を卒業してはいない。3年次終了後、飛び級で九大大学院に進んだ。大学入試時の成績開示はEで、学科合格者の中では、ぎりぎりの合格であった。1年次にアメリカ留学等を経験しながら勉学に励み、大学4年生を経験することなく、大学院生となり研究に時間を費やし努力を重ね、今では、某国立大学の准教授になっている。昨年5月、羽田空港でばったり会ったが、イギリスでの学会で研究発表してきたとのことであった。

二人目は、文系女子の生徒で、読解力に優れ国・英は力を持っていた。数学に苦手意識があり、広島大学に合格できる力は十分にあったが、岡山大学の文学部を受験した。中期試験受験の移動中に合格の知らせを受けた時は、涙が溢れ思わずその場にしゃがみこんだということであった。センター試験の国語では思った点数が取れなかったが、2次試験の国語ではほぼ8割の得点であった。大学入学後は、書店でアルバイトをしながら休まず講義を受け、勉学と研究に勤しんだ。その傍ら公務員を目指し、ダブルスクールに通い、複数の公務員試験に合格した。卒業時には文学部の総代となり、岡山大学の卒業式では、総代として学長から卒業証書を授与された。

三人目は、理系女子の生徒で、理解力が高く、成績優秀であった。ただ、日本史だけは苦手で、学力検討会で、「日本史の才能がない」と聞いた最初で最後の生徒であった。教員間でも「国・数・英が偏差値65以上なのに、日本史の才能って何？」と話したりした。自分が何をしたいか、何に向いているのか考え、探ってはいたが、決まらず迷っていた。最終的には九州大学理学部物理学科を受験し、合格した。大学生にはなったが、これでいいのかと悶々とした日々を過ごし、迷った末21世紀プログラムへの転部を行い、カナダへの1年間留学を敢行した。それからは勉学と研究に取り組み、同級生に1年間遅れることになったが、21世紀プログラムの総代として九州大学を卒業した。

このように学び続ける生徒を育てたい。現代は、日進月歩技術革新が進み、社会の構造的変化が余儀なくされている。今後AIの活用等により社会がどれほど変化するか分からない。そんな社会だからこそ学び続ける必要がある。どのような職業であろうと、学び続けなければ、時代のニーズに取り残されてしまう。学び続けるためには、まず、現状を認識する力が必要である。社会など外的世界と自分を取り巻く環境に対する現状認識である。今自分が置かれている状況・現実を受け止め、受容し、何をすべきかを真摯に考え、行動できる力が必要である。動き出し、自分の考えや行動に修正を加えながら真摯に継続し続けることが学び続けることではないか。現実を受け止め、それに対応しようとしめない人を信用することはできない。君たちにはそれができているか。学びの入り口に立っているか。どのような職業であろうと、理想に向かい、あるいは、自分のために、他人のために努力を重ね、学び続ける人の姿は美しい。現実を受け止め、己を知り、学び続ける人になってほしいと切に思う。学び続けることが自分を活かすこと、自分を生きることなのだと思う。

校内読書週間・県高校総合文化祭【図書部門】ライブラリーフェスティバル県大会

第73回全国読書週間の一環として、11月5日～8日、校内読書週間を開催しました。期間中の昼休みに雑誌付録抽選会・古雑誌頒布会を行い、恒例の標語コンクールを実施しました。今年度の優秀標語は以下の通りです。

- ・最優秀賞 「十分間 今の私は 名探偵」 石元 杏奈 (3-5)
- ・優秀賞 「あと少し ページめくると 朝の鐘」 桑原 香澄 (2-3)
- ・優良賞 「『想像』の 翼広げて 文字を追う」 青嶋 ひなた (2-4)

第16回ライブラリーフェスティバル県大会は11月8日、諫早文化会館で開催され、1・2年生の図書委員が2名ずつ参加しました。全体会ではNBCアナウンサー村山仁志氏の講演「放送と小説と」があり、テレビやラジオだけでは知ることのできない作家村山氏の姿を垣間見ることができました。非常に厳格な父親、幼い頃から文学者志望だった姉（村山早紀氏）との思い出のエピソードなど、有意義な内容でした。分科会では、各校の図書委員・図書部員との交流を深めることができました。（教務部 図書視聴覚担当）

保健講話

11月21日、2年生を対象にデートDV予防授業が行われました。NPO法人「DV防止ながさき」より大川内紀美子様をお招きし、「対等な関係をつくるために」というテーマでお話し頂きました。デートDVとは何か、またどれくらいの割合で起こっているのかが紹介され、自分にも起こりうるという現実には驚いた生徒も多かったようです。よりよい人間関係をつくるための言葉のやりとりも実際にロールプレイし、身近な実践を学ぶよい機会となりました。以下に、生徒の感想を一部紹介します。

- ◎女性の中の約20%の人がDVを受けていてびっくりした。どんな人に対しても、相手を責める言い方（ユーマッセージ）をせず、言葉で伝える言い方（アイメッセージ）をしなければならないと思った。
 - ◎よくニュースでDV、ストーカー、虐待などのニュースを見ても、自分には関係ないと思っていたけど、これからはもしかすると自分にも起こりうるかもしれないと思いながらDVについて考えていきたいです。
 - ◎「親しき仲にも礼儀あり」という言葉があるように、どんな親しい家族や友達であるからといって、態度・行動を変えることなく、礼儀をもって関係を築いていくべきだと感じました。
 - ◎対等な関係を築くことができるように、最初からノーと言える人になります。
- なお、同時間帯に1年生を対象とした性教育講話も行われました。（保健相談部）



ローカルでの取組：肥前うまかもん市

11月9日（日）、ホテルオークラJRハウステンボス主催の「肥前うまかもん市」に1・2年生の有志生徒（14名）が参加しました。スイーツ班は洋菓子店「さいかい堂」様とのコラボスイーツを企画・販売しました。本校OBでもある永田シェフのご指導のもと考案した4種類のスイーツは、佐世保産の食材の調達から調理まで、自分たちの手で完成させました。物産班は、平戸・宇久島・黒島の魅力を伝えられるような装飾・接客を工夫しながら、特産品を販売しました。生徒の感想を一部紹介します。

◎初めて商品作りに携わって、一つのものを作るために、こんなにも多くの人が携わり、たくさんの時間をかけて何度も練り直す、その過程を経てやっと人の手に届くのだと思いました。商品を提供する側に立ったことで、今自分の身の回りに当たり前にあるものがどうやって自分のもとへ届いているのだろうと考えるきっかけになりました。



校内マラソン大会 (体育科より)

絶好のマラソン日和の中、令和最初の健脚一を決める第26回校内マラソン大会が開催されました。今年は競技場改修のため、コース変更でのレースとなりましたが、駐車場周辺には例年に増して沢山の応援が飛び交っており、クラス・学年の枠を超えた西高生の繋がりを感じるレースとなりました。また、今年度から個人の部のみとなったこともあり、生徒1人1人が自分のペースを守りながらも全力で自らの目標に向けて駆け抜けていた姿も印象的でした。

大会の開催にあたり、育友会・母の会の皆様の温かいご支援本当にありがとうございました。大会準備期間を通して、生徒の体力の向上には目を見張るものがありました。今後も引き続き健康の保持・増進の為に、しっかりとした体作りに励んでいこうと考えています。

～個人の部～

男子		女子	
1位	飯尾 開聖 (2-6)	1位	久保川 悠 (1-1)
2位	金崎 智樹 (2-5)	2位	井上 天綺 (1-4)
3位	福田 時也 (2-5)	3位	古閑 ましろ (1-6)
4位	高木 力駆 (1-2)	4位	黒石 るな (2-2)
5位	松本 隼斗 (1-6)	5位	萩原 愛 (1-1)
6位	山下 聖矢 (2-6)	6位	濱崎 千翔 (2-5)
7位	廣川 颯汰 (2-2)	7位	田島 萌絵 (2-4)
8位	中野 滉人 (2-5)	8位	三ヶ島 如菜 (1-1)
9位	近藤 稜友 (1-3)	9位	大浦 実夏 (1-6)
10位	松本 昂大 (1-4)	10位	野口 陽向子 (1-6)



グローバルな取組：「EUがあなたの学校にやってくる」ドイツ総領事講話&「中国高校生訪日団」来校

11月・12月は、本校の教育方針に掲げている「地域社会及び国際社会の一員としての自覚と感性を備えた人材を育成する」ための行事が続きました。「地域社会の一員」としての人材育成は、表面の「肥前うまかもん市」への参加にあるような「ふるさと創生大作戦」の取組です。一方、「国際社会の一員」としての人材育成と



して、標記の2つの行事を実施しました。「EUがあなたの学校にやってくる」では、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館ヴェルナー・ケーラー総領事に、現在のEUの状況や抱える課題について講演を行っていただきましたが、講演は生徒のほとんどが初めての体験である同時通訳を通して行われました。質疑応答では、生徒が積極的に挙手して質問し、その姿勢に総領事が非常に感激しておられました。

「中国高校生訪日団」は「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として来校し、^{せんせい}陝西師範大学附属中学及び^{ちようさ}長沙市^{がれい}雅礼中学の生徒30名が来校し、2年4組を中心に交流行事を行いました。今回は、環境をテーマにした取組が求められており、日中の合同グループで学校周辺の土砂災害警戒区域などを回り、気づきなどを共有しました。中国の高校生とは、英語を中心にコミュニケーションをとり、最初はぎこちなかったものの、徐々に生徒同士の会話が弾んでいきました。放課後は西高太鼓部の練習にも参加し、交流を深めました。



佐世保地区公立高校PTA研修会

メインテーマ：「社会の変化と家庭や学校のこれから」、サブテーマ：「生きる力を育むために～保護者としてPTAとしてできること～」のもと、11月16日(土)に行われました。

実践発表では、佐世保北高校PTAからは、「『佐北PTAの諸活動』について～『母の会・おやじの会』の取組について～」というテーマのもと、様々な学校行事と連動して活動している母の会・おやじの会の具体的な取組みとその成果について報告がありました。大崎高校PTAからは、「『地域と学校とPTAがともに育つ取組み』～大崎高校PTAの活動～」というテーマのもと、地元地域の様々な行事と大崎高校の関わりとの現状と、それをより緊密に連携させているPTA活動の様子が紹介されました。

講演会では、本校28回生で、現在世界を舞台に幅広く活躍されている女優・歌手の緒方美穂氏をお招きし、『「子どもたちの生きる力を育む」ために』の演題で、子どもと向き合い、子どもの話に耳を傾けることで、コミュニケーション力を培うことが大切だとお話されました。特に、「聞く・聴く・訊く」の言葉それぞれが持つ意味を考え、大人が傾聴することで子どもたちが話してくれる雰囲気を作り、そのことで子どもたちの自己肯定感を高めること、そのことがお互いの信頼関係に結びつくものであるとの内容に私たちも考えさせられました。

また、今年度は本校が地区中心校として、企画から準備・当日の運営に至るまでを担当しました。早朝より会場設営・準備等にご協力いただいた役員の皆様方ありがとうございました。研修会に参加していただいた保護者の方々にも感謝申し上げます。(教務部)



本校太鼓部・書道部のアトラクションの様子

主な試合等の結果

<美術部>

- 令和2年度長崎県愛鳥週間用ポスター原画
高等学校の部 優秀賞 吉浦 麗奈
優良賞 山中 彩乃
佳作 河野 優空



<その他>

- サイエンスキャスル2019九州大会
ポスター発表 研究奨励賞 井口唯翔、今里歩夢、小西花恋、北村亜依香、河邊り
- 第65回青少年読書感想文長崎県コンクール
自由図書部門 優良賞 川口茉紘

《1月の行事予定》

3日	(金)	3年プレテスト(～4日)
6日	(月)	3年冬季講座(～7日)
8日	(水)	授業再開日、冬季実力テスト(1・2年)
9日	(木)	冬季実力テスト(2年) 百人一首大会(1年)
11日	(土)	小論文セミナー(1・2年)
12日	(日)	県吹奏楽祭
18日	(土)	大学入試センター試験(3年)、対外記述(1・2年)
19日	(日)	大学入試センター試験(3年)、対外記述(2年)
21日	(火)	特別編成授業開始(3年)
26日	(日)	第3回英検一次(公開会場)